

必要な情報はここを見ればすべて分かる ひのき進学グループが目指す、スクールマネージャーを 活用した新しい保護者コミュニケーションの新しい形

先生を「本来の仕事」に戻す

ひのき進学教室は、仙台市で30年以上にわたる地域の子供たちを指導してきた塾です。現在は集団指導、個別指導、大学受験、公立中高一貫校受験など幅広いコースを展開し、22教室を運営。小・中・高を貫いて指導できる体制を整えています。



ひのき進学グループ 教務推進室 室長 浅倉 康晴 氏

宮城県仙台市泉区で1995年に開校し、30年以上にわたって地域の子供たちの学びを支えてきたひのき進学グループ。現在は集団指導、個別指導、大学受験、公立中高一貫校受験など幅広いコースを展開し、22教室を運営している。教室の拡大とともに、先生が担う業務も増える中、いかに学習指導以外の業務を効率化し、子どもたちと向き合う時間を確保するかが課題となっていた。そこで今年4月、「生徒と保護者をファンにする」をコンセプトに掲げるコミュニケーションツール・FLENS School Manager（以下、スクールマネージャー）を導入。紙による配布物や電話での連絡業務を効率化するとともに、保護者への情報発信を一元化する取り組みを進めている。導入から5カ月が経った現在、現場にはどのような変化が生まれたのか。そして、ひのき進学グループが描くスクールマネージャーの活用の先にあるものは。教務推進室室長の浅倉康晴氏に詳しい話を伺った。

最近、郵送物を見る習慣がない保護者もいます。データで配信すれば、送信履歴が残る、既読状況も確認できます。塾からのお知らせを「届けたつもり」で終わらせず、必要な情報を確実に届けるためにも、デジタル化は必要だと考えていました。

最終的にスクールマネージャーを選んだのは「生徒と保護者をファンにする」というコンセプトに共感したからです。これは、私たちが以前から大切にしていた「保護者との関係をより良くする」という考え方も重なりました。単に業務を効率

ていきました。

まず4月、5月にかけては保護者に登録を促し、5月末までの登録率95%を目標にしました。無事に目標を達成でき、その後の6～7月は、教室からのメッセージや保護者のやり取りを中心に、実際の運用に慣れていく期間としました。8月からは、各教室からの発信だけでなく、ひのき進学グループ全体から保護者へ情報をお届けすることも意識しています。

例えば入試情報や合格者の体験記、勉強法なども含め、「塾や受験に必要な情報もスクールマネージャーを見れば分かる」という状態にできれば理想的だと思っています。配信した情報は後でライブラリから確認できるため、過去のお知らせを探す際に複数の場所を確認する必要もありません。請求に関するお知らせなども含め、塾からの情報が一元化されていけば、保護者にとっても使いやすい環境になると思います。先生たちが子どもたちと向き合う時間を増やし、必要な情報を確実に届けること。その積み重ねが、最初に共感した「保護者と生徒をファンにする」という考え方にもつながっていくと思っています。

面談予約機能やアンケート（申込／回答）機能など、これから活用したい機能はまだまだあります。そのため、まずは今の運用をしつかり定着させることが大切だと考えています。新

大きく2つあります。1つは、講師がより学習指導に注力できる体制をつくりたいということです。塾の講師は、授業をするだけが仕事ではありません。授業準備に加えて、保護者との連絡、面談日程の調整、請求業務など、さまざまな仕事があります。その中には、効率化できるものがあります。例えば、これまで各教室で行っていた書類の印刷や封入、郵送などです。そうした業務を減らすことで、先生たちが子どもたちの指導に使える時間を増やしたいと考えました。もう一つは、塾から保護者への情報を確実に届けることです。これまでは授業中に生徒へ配布したり、郵送したりしていましたが、生徒に渡したものが行方不明になったり、郵送物がほかの郵便物に紛れて見落とされたりすることがありました。

化するためではなく、保護者との関係をより良くするための仕組みとして活用できると感じたことが後押しとなり、まずは集団指導の9教室へ導入することになりました。

紙・電話中心の業務を効率化し、保護者とのコミュニケーションを変える

導入してまず効果を実感したのが、配布物に関する業務です。これまで教室で書類を印刷し、封入するだけで約2時間半かかっていた。スクールマネージャーでの配信に切り替えたことで、現在は約30分。作業時間はおよそ5分の1になりました。これが9教室分ですから、人件費に換算してもかなり大きな効果だと思います。

ただ、私たちが大切にしているのは、単に作業時間が減ったということではありません。そこで生まれた時間を、先生たちが本来やるべき仕事に使えるようになったことです。実際に先生からも、「業務が少し楽になった」「学習指導に注力できる」という声が出ています。電話による連絡も変わりました。以前は、欠席連絡などの電話が授業前に集中すると、教室全体が慌ただしくなることがありました。授業中、電話に出られないこともあります。スクールマネージャーを使えば、必要な連絡を簡単に確認でき

